



# 庄内で唯一の木地挽職人

## 岡村木地挽木工所

### ◆祖父の代から三代 百年以上にわたり継承

動力で木を回転させ、盆や椀、茶托、こま等を仕上げていく「木地挽職人」。明治時代まで柱や床板などありとあらゆる材木は、太い原木から大きなノコギリで挽き出されてきました。木挽製品は日常生活において長い間使用され、生活に密着した民具となっていました。動力鋸による機械製材の導入で、伝統の木挽作業は姿を消しつつあります。

庄内地区の木地挽職人は鶴岡市大山の岡村安雄さん（七六）ただ一人です。祖父の代から三代、百年以上

にわたってこの仕事を継承しています。

初代である岡村さんの祖父は、明治二十三年、機械の普及がされていない時代、鶴岡市へ卸す日常生活用品である盆や椀、玩具、仏具、祭事関係の木製品の製作を行っていました。二代目の岡村さんの父の時代になると、手動での作業から動力で作業をするようになり、仕事内容が大きく変わり、量産もできるようになりました。岡村さんの父は、北海道函館市で十年間修行後、鶴岡市大山へ戻り船で使用される網の浮き等を函館市へ卸していました。また、農機具の製作も行っていました。鉄より安価で、加工しやすい木の農機具は農家からの需要も多くあったということです。

### ◆木の特性を生かす 作品づくり

現在、料理研究家の辰巳芳子さん考案のすりこぎの作成を手掛けており、桜材で一つ一つ手に馴染む形に削り出して仕上げています。このすりこぎは、すりこぎの円球を広くしてすり鉢との接点を増やし、握りやすいように柄を流線型にしているというのが特徴で、大変好評です。辰巳芳子さんのもとのみの販売となっているので、インターネットで購入することもできます。また、昨年は庄内地域の各商工会が主催する、庄内の魅力ある商品・すぐれた技を集めた産業フェア庄内にも出品されました。



辰巳芳子さん考案のすりこぎとすり鉢

最近では、国内産製品に比べ材料も安価な外国製品が多くありますが、岡村さんは国内の木や塗料等にこだわって製品の製作を行っています。岡村さんは、「海外のものに比べコストはかかるが、環境と人にやさしい木製品づくりを行ってきたい」という思いを持ち、木地挽作業を続けています。また、「こういふ材料があるが、これで木地挽製品を作ってもらえないか」といったお客様の注文にも応えるなど、使う人の思いになり、木製品の製作を行っています。岡村さんは、東北芸術工科大学の学生に木地加工技術を教えたり、山形県産木製コンテストへの出品や山形市の霞城セントラルに山形を象徴する作品を根付かせたいという思い

そして、現在三代目である岡村安雄さんは木工旋削の技術を身につけるため、宮城県仙台市にある国の産業工芸試験所で専門の知識や技術を習得し、木地挽製品の製作を始めたそうです。主に製作しているのは、食器類やコマ、鋳物の原型となる木型、神社仏閣の擬宝珠（ぎぼし）等注文に応じて製作しています。



出羽商工会大山支所に展示されている木地挽製品

のもとスタートしたアートチエアール・プロジェクトにも参加し、庄内の小学生がデザインした庄内米のイスの製作にも関わっています。そのような活動を通し、年々減少している木地挽職人の伝統の技を伝えていきたいと考えています。



芸術工科大学の学生と共に制作した作品



木地挽技術により製作されたなめらかな木目が印象的な急須置き



木地挽職人 岡村安雄さん



木地挽製品製作の様相



現代っ子にも昔ながらの遊びの魅力を伝えたいと丹精込めて作った金こま

木地挽物・産業工芸・木型製作  
**岡村木地挽木工所**  
岡村 安雄  
(所在地) 〒997-1124  
山形県鶴岡市大山二丁目1-21  
(TEL) 0235-33-2428  
(FAX) 0235-33-2428